



三到図書館 ニュース

2018年10月発行
No.83

J. F. Oberlin University Library

- ◇巻頭メッセージ ◇教員からのメッセージ ◇図書館活用方法
◇読書運動プロジェクト活動報告 ◇選書ツアー報告 ◇図書館からのお知らせ

巻頭メッセージ

図書館にいきましょう

リベラルアーツ学群教授 任 雲

近ごろ、多くの学生が大学に来たら教室・食堂・ラウンジ・サークル練習場所などを利用しますが、図書館を敬遠しているようです。図書館は本当に実り豊かな場所であり、ぜひ活用してもらいたいです。

まず、図書館はすべての学生にとって楽しい場所、寛ぎの場所になりうることを強調したいです。図書館には音楽・美術・スポーツ・ダンス・旅行・文学・教養など、多ジャンルの雑誌・視聴覚資料・書籍が揃っています。専門分野の学習だけではなく、趣味を堪能することもできるのです。ある美術好きの学生から聞いた話ですが、授業後疲れたときよく雑誌コーナーに行き、『芸術新潮』などを見てくつろいだそうです。私も学生時代に図書館で勉強する合間に、授業と全く関係のない古代美術の大型画集や文学関連の雑誌をよく見ました。授業で疲れた時、悩みがある時、あるいは友達とわいわいした後でも、図書館で趣味の本や雑誌を落ち着いて見れば、よい気分転換になるし、確実に満足感を得られます。

そして、学生にとって図書館は重要な学びの場所です。誰にだって授業の内容が理解できないときはあります。そのときどうしますか。スマホ検索で満足する学生が多いでしょうが、それでは勉強が深くなりません。ネットの多くの情報は断片的であり、不正確なものもあるからです。教員に質問する以外に、図書館で疑問を解決するのも大切です。図書館には授業の指定図書のほか、多数の教科書・参考書も揃っています。異なる本には、同じ内容に関して詳しく書いたり、わかりやすく書いたりなど、執筆者それぞれが工夫を凝らしています。複数を含めて読み比べたら、大体納得

のいく答えが見つかります。私は学部では理系で、大学院では経済学を学びましたが、理論の説明や問題の演算に困った時、この方法でほとんどの問題を解決しました。

さらに、レポートや卒論を書く文系上級生にとっては、図書館に行くことが作業の先決条件だと思います。資料を探すには一般のネット検索は楽ですが、キーワード検索では不十分だったり、俗説に惑わされたりとリスクがあります。そこで図書館のデータベースを利用することも良いですが、実際に図書館に行って、関係のありそうな資料をとにかく集めることをお勧めします。その上、軽く目を通すだけでも、大体中から有用な資料を見いだすことができるのです。私は修士課程で日本的経営を学ぼうとしましたが、しばらく勉強したら壁に当たりました。その時図書館でぶらぶらして、手に取ったのが青木昌彦先生執筆の『日本経済の制度分析』など数冊の本でした。この数冊の本をベースにして学び直し、以降の研究の方向付けができました。あの時、たまたま本を手にした時の興奮を今でも覚えています。

私自身の学生時代の体験で恐縮ですが、学生の皆さんも図書館に行けば、異なる楽しみや図書館の魅力がきっと見付かると思います。皆さん、図書館を大いに活用してください。



私が推薦する図書

ビジネスマネジメント学群教授 野田 秀三

本学には、大学の学生として、そして教員としてかわり50年を超えました。本学に長くお世話になったものとして人生に示唆を与えてくれている3つの著書を紹介することにします。



- (1) マックス・ウエーバー著、梶山力・大塚久雄訳
『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神 (上)』
(1955、岩波書店)

私が本学経済学部経済学科の1期生として入学してまもなく祖父から薦められた図書です。この本は、近代の資本主義の発展の背景には、キリスト教の禁欲的プロテスタンティズムの経済的倫理と近代西ヨーロッパにおける資本主義の発展の精神的な力となった資本主義の精神との関係から禁欲的な倫理観のもとで企業が営利の追求をしたことを明らかにしています。近代の資本主義の発展にこのような考え方があったということに共鳴するものがありました。この著書は、難解な論述もありますが今日の資本主義の発展を解き明かした著書としては秀逸な文献であることは確かです。



- (2) 似鳥昭雄著

『運は創るもの』

(2015、日本経済新聞)

この著書は、流通業界で急速な発展をし続けているニトリの創業者の履歴書として書かれたものです。似鳥氏が日本経済新聞に「私の履歴書」として1ヶ月間連載されたのを毎回興味深く読んでいました。実は、私事になりますが、私の出身地は横浜ですが、1歳から高校を卒業するまで札幌の公務員宿舎にいました。似鳥氏の会社の創業の地が私の住んでいた公務員宿舎の近くにあり、似鳥

氏の著書にも公務員宿舎に物を売りに来たことを回想しています。似鳥氏とは小学校、中学校が同窓であることも親近感もちました。著書によれば似鳥氏は優秀な人材を採用し、自ら米国視察に参加し、米国の流通業界の実態を調査し、マーケティングコンサルタントから事業の多角的経営のノウハウを学び、それを実践してきたことが今日の事業の発展にいたっていることが読み取れます。



- (3) ジェイコブ・ソール著、村井章子訳

『帳簿の世界史』

(2015、文藝春秋)

最後に取り上げるこの著書は、古代文明から近年のリーマン・ショックまで、帳簿に記録されたものから世界史を読み解いています。私が会計学を研究し学生たちに会計の重要性を教える立場から簿記・会計をよく理解していることが会社の経営に重要であることを改めて認識させてくれる好著です。

著書では、会計は事業や国家や帝国の礎となるものであり、会計は企業の経営者や一国の指導者が現状を分析し対策を立てるのに役立ち、会計がおろそかにされている場合は破綻にいたることがあることを世界史から読み説いています。



ここで取り上げた三つの図書は、経済史、マーケティング、そして会計のそれぞれの分野にわたりますが、いずれの図書も示唆に富んだ好著です。

皆さんも多様な図書をとおして人生の教養を深めていただくことを願います。



 教員からのメッセージ

図書館環境の変化のなかで

リベラルアーツ学群教授 太田 哲男

今は昔の話だが、1990年代はじめ、高校「倫理」の教科書の執筆者になって、日本思想の部分の担当を割り振られたとき、思い切って『国史大辞典』を買った。なにしろ全17冊だから、第1巻は「あ～い」の巻という具合で、あれこれ調べながら原稿を書いていると、すぐに数巻を開くことになる。判型は大きく重く、本を開いたまま床の上に並べると、文字通り足の踏み場に苦勞する羽目になった。それでも、おおいにこの大辞典を利用した。インターネット以前の時期だった。

それからほぼ20年後。転居するにあたり、本を処分する必要に迫られた。そのとき、この『国史大辞典』を売却した。この大辞典は電子化されていて、三到図書館のサイトからJapanKnowledgeというデータベースにアクセスすれば、この辞典を見ることができた。そこで、自分で紙の本を持っていなくてもよいと判断したからだった。さらにその後、この『国史大辞典』は、自宅からでもアクセス可能となった。おまけに、このデータベースを使えば、平凡社の『東洋文庫』シリーズにも『新編日本古典文学全集』（小学館）にも自宅でアクセスできるようになったのだ。こんなにありがたい話はないと思った。

数年前から、大正期のデモクラット・吉野作造の伝記を書くことになった。そこで、吉野と交流があった人びとのことをあわせて描き出すことによって、特色ある伝記にしようと考えた。そういう方向性のためもあり、JapanKnowledgeの『国史大辞典』『日本大百科全書』などをずいぶん参照した。

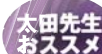
また、吉野作造は、1920年前後に、『東京朝日新聞』『大阪朝日新聞』に寄稿することが多かったが、それらの新聞記事に、大学の図書館を媒介にして、近年は自宅からでもアクセスできるようになった。当時の『朝日新聞』を次から次へと見ていくと、まるで自分がその時代にタイムスリップしたような錯覚をおぼえた瞬間もあった。

今は亡き思想史家の藤田省三さんが、自分が研究対象としている時代に入り込んだかのような気持ちにならなければダメだ、という意味のことを言っていたことを思い出した。

加えて、国会図書館のデジタルライブラリーもあり、1933年に亡くなった吉野の場合、著作権の問題がクリアできるので、生前の著作の多くを画像で読むことができるようになってきている。このデジタルライブラリーも重宝した。

吉野作造伝に載せる写真の選定をしたとき、ウェブサイト上のデータベースも利用した。たとえば、吉野作造が社会民衆党という社会民主主義的な政党の立ち上げに尽力した時期の写真が、早稲田大学大学史資料センターに残されていた。ここにもまた、学外のPCからアクセスできる。私はこの資料センターのサイトに、図書館あるいは資料館の新たな方向性をみたように思った。

とはいえ、授業期間がはじまると、なかなか原稿執筆ははかどらず、完成までに思いのほか時間がかかってしまった。ウェブサイト上で多くの資料に接しても、満足いく本がスラスラと書けるかどうかとは別の話なのである。

 太田先生
おすすめ

JapanKnowledge (ジャパナレッジ)
<https://japanknowledge.com/library/>

約50種類の辞事典、叢書、雑誌の内容を一気に検索できます。大学内・大学外問わず利用できます。



図書館活用方法

ラーニング・コモンズを活用しよう！

2017年に三到図書館3Fの閲覧席フロアがラーニング・コモンズとして利用できるようになりました。ラーニング・コモンズが生まれてから約1年。図書館にできた「新しい空間」は様々なことに活用されています。今回はその場がどんな風に利用されているかをご紹介します。

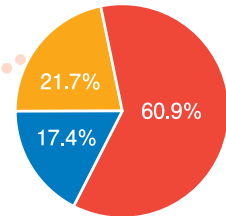
学修利用

実際にラーニング・コモンズを利用していた学生へアンケートをとりました。テスト前の忙しい時期にご協力いただき、ありがとうございます！

- アンケート実施期間：2018年7月20～30日
回答：23名

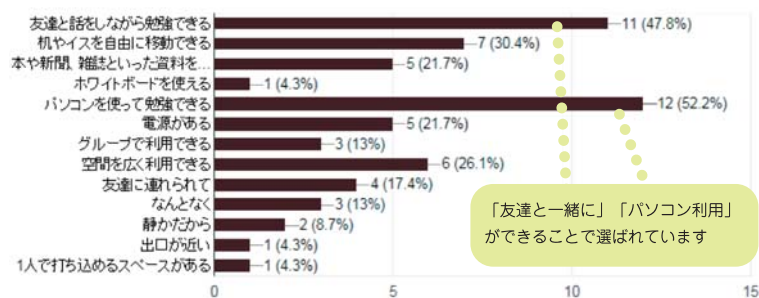
図書館の3F閲覧スペースはどのくらい利用していますか？

- よく使う
たまに使う(週1～2日)
今日がはじめて



テスト前のスポット利用が多いかと思いきや、常連で利用している方も多いようです

3Fのスペースを使う、使った理由は？(複数回答可)



「友達と一緒に」「パソコン利用」ができることで選ばれています

この3F閲覧スペースの改善点があれば教えてください。

(例：〇〇を増やして欲しいetc...)

コンセントの口についての意見が多くありました。★

「おしゃべりOK」ですが、あまりに大きな声は慣むようご協力ください。

- ★ コンセント
時々流れる館内アナウンスの頻度を減らしてほしい。
しゃべるためみんなの声が大きいときがある。1階や5階が混んできるときに利用すると気になる。
★ 机にもコンセントの差し込み口が欲しい。そうすれば真ん中の席でもノートパソコンを簡単に充電できる。
★ コンセントが遠い席がある。
4人がけの机が多いので、可能であれば2人がけの机を増やしてほしい。
長時間利用するとエアコンが寒いので温度の調整をできるようにしてほしい。
もっと一人席等が増えてほしい。

机やイスは自由に動かして人数調整OKです。

ラーニング・コモンズって何？

利用者の利用目的に合わせ、図書館資料やICTを活用し、効率的に学習を進めるための学習スペースです。
1F/5Fの静かな閲覧スペースとは違い、
・机、イスの自由な移動 OK
・話し合い OK
・ホワイトボードの利用 OK
と比較的自由に利用することができます。



図書館で45分留学

図書館は国際センターと協力しながら、留学を予定している学生の皆さんに対し、留学前の準備として図書館をうまく活用しながら必要な情報を収集したり、また活用したりできるように図書館のガイダンスを行っています。その他に、英語によるコミュニケーションに自信をつけるため、海外留学において必ず出会うであろう場面を想定した英会話を練習することが大事で



はないかとの考えから、2017年の春学期に「図書館で45分留学」が誕生しました。現在は月に2回のペースで行っています。本学のネイティブの先生をお招きして、指導に当たっています。留学を予定している皆さん、または英会話スキルを磨きたい学生の皆さん、是非友達と一緒に参加してみてください！あなたの世界が広がっていきますよ！

(図書館メディアセンター 糸数 ナンシー美香)

授業で活用！

ラーニングコモンズとゼミ活動

リベラルアーツ学群教授 大中 真

私は本学の大学教育開発センターの研究員として、かつて立命館大学に視察に訪れたことがある。当時先端的だった「コモンズ」のスペースが図書館に設置されているのを知って感心し、視察報告をセンターの年報に執筆しました。このたび桜美林大学図書館でもコモンズが設置されたと聞き、早速に1年目から利用している。

コモンズの利点は、アクティブラーニングと密接に関連することである。私は1年生のLAセミナーと、3年生の専攻演習の両方で、1学期間に数度、利用している。具体的には、学生を3-4名ほどの少人数グループに分け、課題を与え、報告のための参考文献収集とグループ討論のためにコモンズを活用している。この場合、事前に図書館ガイダンスを受けていることが重要で、最低限の検索の仕方や蔵書の場所を、おぼろげでも覚えていると、効率よく探している文献に辿り着くことができるようである。

また、講義で教員が一方的に話をする授業形態から抜け出し、学生が自主的に資料収集に取り組むきっかけを与えられること、個人単位では勉学への動機付けが低い学生でも、集団行動ゆえに責任を共有して活動することも長所である。ただし、常にコモンズを利用すると慢性的で刺激がなくなるので、実施する回数とタイミングを絞ることも重要である。今回、桜美林大学図書館がコモンズを設置した試みを大いに評価し、今後多くの教員や学生が利用することを期待したい。

日本文学史A in ラーニングコモンズ

リベラルアーツ学群准教授 岡田 万里子

「日本文学史A」という授業を担当することになり、最も意識したのは、高校までの暗記科目からの脱却でした。単に、有名作品の作品名と作者名、年代、特色を学び、覚えていくのではなく、履修する学生それぞれが問題意識をもって、日本文学とはなにか、その歴史とはなにかということを考えてほしいと思いました。

とはいえ、知らないことについては考えられませんが、最初から、最初から高校までのおぼろげを、そのうえでこれまでの知識を批判的に検証します。その際に助けとなるのが、図書館に所蔵されている日本文学に関する書籍です。

履修者はグループに分かれ、それぞれがテーマを決め、図書館の蔵書を頼りに問題発見に取り組みます。これには、読書と対話が必要です。本を読みながら話し合えるラーニング・コモンズがあれば、この授業は実施できませんでした。履修者は、話し合いを経て、グループとしての調査・考察をまとめ、ポスター発表を行います。ラーニング・コモンズでの授業は、30回のうちの1コマに過ぎませんが、90分があつという間に過ぎて、もっともっと調べ、話し合いたいという気持ちにさせる、重要な動機付けの回となっています。



Please join us for 45 minutes study abroad at the library! You can have fun while practicing English with role plays and guidance from teachers. Every time is a different topic including casual conversations, cultural exchange, research and writing skills, so don't just come one time, come every time you can! We look forward to seeing you there.

リベラルアーツ学群 講師 Franklin Sussman

Hello, my name is Kayla and I officially invite you to 45 min study abroad! Come have fun with us at the library, learning useful English conversation and academic research skills. Even if you are not studying abroad, please come and learn more about what the library has to offer. All levels of English are welcome. I hope to see you there!

リベラルアーツ学群 講師 Kayla Johnston-Mitchell

読書運動プロジェクト活動報告

2018年度春学期 桜美林大学図書館読書運動プロジェクト活動報告

新入生勧誘活動

桜美林大学図書館読書運動プロジェクト実行委員会（以下読プロ）では今年も図書館前の広場での「公開ミーティング」や新入生向けの課外活動団体等紹介イベント「うえるがりんフェスタ」にも参加し、新入生歓迎活動を行いました。

今年も興味を持った多くの新入生が実際のミーティングに参加してくれました。

5月に行った顔合わせの「キックオフミーティング」では、一年間の予定やPOP講座などを行いました。

読プロでは春学期に新入生歓迎活動を行っていますが、時期・学年を問わず新しいメンバーを募集しています。



図書館棚

◆活用ツール棚

去年4月に作成し、大変好評だったので今年4月も作成した棚です。図書館の利用者を増やすことと、新生活が始まり一人暮らしをする人の不安を解消することを目的としています。3面ある棚を、「暮らし」「勉強」「職業」に分け、それぞれのテーマに沿って選書しました。加えて、図書館を利用する人が手に取りやすいように、絵や写真の多い本を意識して置きました。新一年生を中心に多くの学生に利用して頂きました。



◆涼しくなる棚

今年の6月に作成した棚です。6月に入ると、もうだんだんと暑くなっていきます。そんな暑さを少しでも解消するため、このテーマにしました。ヒヤッとするホラー、ミステリーの本の他、涼しくなるための生活の知恵や見るだけで涼しくなるかき氷の本などがあります。その中でも、特にかき氷の本は人気があり、立ち読みする人も多く見られました。



読書会

読書会とは!? 本を1冊ピックアップし、その内容などを掘り下げながら意見交換を行っています。

◆「ツナグ（辻村深月／著）」

5月7日・11日の2回に分けて行われた読書会は、辻村深月の「ツナグ」がテーマでした。初めて新一年生も交えた読書会だったので、とても和気あいあいとしていました。話題は主に、自分の好きなキャラクターと、そのキャラクターの良かった点でした。また、「作中でぐっときた台詞」でも盛り上がっていました！生死の関わる話だったので、暗い雰囲気になってしまうかと思いきや、最後までとても明るい雰囲気でした。

◆「残像に口紅を（筒井康隆／著）」

6月9日の土曜日に行われた読書会は、筒井康隆の『残像に口紅を』がテーマでした。五十音中の日本語の音が1種類ずつ小説の文面から失われてゆく、という不思議な世界観の小説でしたが、皆しっかりと読み込んでいたので、スムーズに進めることができました。内容についても勿論沢山話しましたが、「途中で挟まれる挿絵がとても可愛い！」という話でも盛り上がりました。ホワイトボードに皆の意見を並べていたので、沢山の意見に触れることができ、とても充実した読書会となりました。




POP講座

教員メンバーである片山博文教授の依頼により、教授が担当する授業「LAセミナー」の中で読プロメンバーがPOP講座を行いました。この講座は「学生の読書力やディスカッション力、表現力を向上させる」ことを目的として学生が読書会、POP作成を行う、ということで、実施されたものです。そして読プロは図書館棚でのPOP作成や、出前講座の実施という実績を認められ、依頼をいただきました。

当日は3人のメンバーが参加し、パワーポイントを使用してPOPの作成方法を学生に説明しました。説明後はどの学生も一生懸命POP作成をしていました。

ブログ、ツイッターも是非ご覧ください！

ブログ <http://obirin-read.jugem.jp/>
twitter  Twitterアカウント @obirin_reading

(リベラルアーツ学群2年 門山 美歌)
(リベラルアーツ学群1年 坂下 望美)

第5回学生選書ツアー2018



8月6日、「第5回学生選書ツアー2018」を開催いたしました。選書ツアーとは、応募いただいた学生が直接書店まで出向き、「図書館にあったら良いと思う本や大学生に読んでほしい本」を学生目線で選書し、展示まで行ってもらうツアーのことです。今回は本の街神田神保町にある三省堂書店本店にて、健康福祉・ビジネスマネジメント・リベラルアーツの各学群から9名が参加してくれました。

参加した学生は、大学図書館に相応しいもの、学群を問わず読んでほしいもの、読書はあまり得意でないという学生にも薦めたい書籍を、各フロアを何度も行き来し苦労しながら、2時間休憩も取らずに探し続けました。事前にどのような分野の書籍を選書しようか決めて臨んだ人も多かったものの、様々な分野の本を目の当たりにすると、やはり悩んでしまったという声も聞かれ、真剣さが伝わってきました。また純粋コミックは選書できない中、分かり易いものを選びたいという思いもあって、マンガチックな解説本の選定に苦慮する学生もみられました。

今年は「POP王」こと、三省堂本店の内田様に講師を務めていただき、POP講習会も開催いたしました。出版業界の厳しい現状や、それに対応する業界・書店の取り組みについて、POPの作成時間が少し不足するほど、面白可笑しく、しかも分かり易く説明していただきました。「POP作成は、その本を読んでほしいという思いを込めること」「思いがこもれば下手でも人を引き付ける」というお話は、POP作成だけに留まらない深いお話でした。

現在、選書本（約150冊）は、三到図書館3F入口に入ってすぐ左にある新着コーナーの場所に、特に紹介したい本には紹介ポップつきで特設展示しています。

展示してある本は、そのまま借りることができます。同世代の学生が厳選・推薦する本をぜひお読みください！

（図書館メディアセンター 高橋 巖）

リベラルアーツ学群3年
長津 日向子さん

選書ツアーに参加するにあたり、事前に「これは図書館においてほしい！」と思う本をいくつかピックアップしていました。しかし、店内を見て回っていると、いろいろな本との出会いがあり、気になる本をじっくりと読み込んでいると、時間があつという間に過ぎていました。あまり本を読まない人の立場になって考えたとき、「わかりやすい」「面白い」と思う本はどんなものなのかを考えながら真剣に選書をしました！私の選書を手に取ってくれる方がいらっしやれば、光栄です。

リベラルアーツ学群1年
森田 かえでさん

選書ツアーに今回初めて参加しました。どの本が分かりやすいのだろうか、面白いのだろうかなど考えながら選書しました。普段、三省堂のような大きな書店には行く機会がなかったので、入だけでワクワクしました。いつもなら手に取らない本とも選書ツアーに行ったからこそ出会い、興味を持つようになりました。POP講座では、「人それぞれの読んでほしいという思いを伝えるためのPOP」と感じました。また本屋は新たな本に出会ってもらうため、様々な工夫をしているということを知りました。今回選書ツアーに行くと、より本のが好きになりました。

リベラルアーツ学群1年
神崎 恵さん

選書ツアーの告知を見て、単純に面白そうだからという理由で参加しました。大きな書店で選書を行うと聞き、事前に気になる本をリストアップしましたが、図書館を利用する人にとって有益である本を選ぶことを求められたので、一冊一冊悩んでしまい選書時間が足りないように感じました。POP制作や普段と違う視点からの選書で、非常に内容の濃いツアーでしたので、今回だけでなく、また次回も是非参加したいと思いました。



図書館からのお知らせ



1Fフロアを改修しました

この1年で1F東側閲覧スペースのレイアウトが大きく変わりました。まず雑誌架が一部撤去され、閲覧スペースが広くになりました。そして学習机は1人1人仕切りのある机になりました。床に敷いていたカーペットの色、机の色が落ちついた配色で、じっくり時間をかけて勉強したいときにぴったりのスペースになっています。各机にコンセントもあるので、図書館で借りたノートPCも利用できますね。

この改修によって幾分かは座席数が増加しましたが、まだまだ学修スペースが多いとは言えません。しかし利用者みなさんが快適に利用できるように少しずつ改修を加えてまいりますので、館内の「利用者の声BOX」にみなさんのご意見をお寄せください。できることから改善しています。



改修された1F東側閲覧スペース

LibrariE(ライブラリエ)を導入しました

2019年度から新宿キャンパスが開設しますが、新宿キャンパスには紙の資料を置いた図書館がありません。そこで学修、研究の他、学修の合間に読めるような様々なジャンルの電子書籍を！ということで、LibrariEを導入しました。この電子書籍サイトには学修に役立つ書籍はもちろんのこと、普段旅行ガイドブックなどもラインナップされています。これらの本はビジネスマネジメント学群の学生に選んでもらいました。

<利用方法>

<https://www.d-library.jp/obirinlib/g0101/top/>にアクセス。



OBIRIN Gmailと同じID/パスワードでログイン



あわせてチェック!!

図書館HPの「学外DB」タブからログインして、学外からアクセスできます。

Maruzen Ebook Library

海外旅行のガイドブックとしてメジャーな「地球の歩き方」や学術書、英語学習に最適な多読本などがあります。



東洋経済デジタルコンテンツライブラリー

就職活動に活用するだけでなく、読み物としてもためになる企業や経済の本や雑誌が読めます。



(図書館メディアセンター 鬼沢 恵子)

● 編集後記 ●

ある調査によれば学生が読書と認識しないジャンルは新聞、教科書、専門書、ハウツー本、絵本、取扱説明書等なのだそう。例えば「新聞」に対して「読む」という認識はあるが「読書」という認識はあまりない、即ち新聞を「読む」ことは「読書」ではなく、同様に「取扱説明書」を「読む」ことも「読書」ではない。そして「読む」「読書」と強く認識されるジャンルは長編小説、短編小説、随筆等であり、これらが“学生たちが「読書」の対象と強く認識するジャンル”と言えよう。／私たちおとなは学生に「読書しよう」「本を読もう」と言うが、いったいかれらに何を読んでもらいたいと思っているのだろうか。哲学、歴史、社会、経済、芸術、福祉、ビジネス、数学、化学、小説、、、好きなものを好きなように読めばいいという物言いは、自分で読むべき本を選べる学生には通用しても、「読書」経験が貧弱な、自分で読むべき本を選べない学生を戸惑わせるだけではないだろうか。(S)